田緑の海堵牛の葉やうやく鈍りうくうの吉日とよぶ
なる和月八幡の夕部うりの小豆粥を猶ふかし
生聟のまそもうり牛を亦歯ところとおきうるうる六味て
爲さくおもりやうるるの所のうれたるようとく記て
爲もうりおもおもしなとて茶飲猪おさ伊小所就ろう
抱得のおし阡陌よりまひもうく車うく声木やりのうし
耳るもうろうきしたた灰燼の鼎蒸るやを蚤ねもやうを祝く
あるるる始らうりさてるる吉子徒ちとの火をまるるる法
りうりりくとうもてうもあれうるるる海りうる年仁りる年
さうぶ春日郎うる拉あり白集の餘せうふとうれりてれもゆしの
実よりや歳月の志ぶ屋よ老成ようる辰をこうしうれまうり

伊藤文庫

一家の流儀ありて争無平手の俳諧子首さしのべ
人の目にかれいまた一際ならぬきしおもむきのなみなきをとらぬる
世になりたりとて果八文雅をやすからんとハいふべきにや
ふれその下流をくるしむその味をつきぬれハあくる日もなく
おのずからよふかくなり一日月盟の作業ありて喜きりに続編に
ものせよとすすむ予もその下にありて思ひかけぬ叟生涯
ちくハくの薫思適ふ適てかくなれば出ましかれぬる
せるみならすとし今たかなるに木に上せんにハ泉下にはいり給ひし叟
をきしおれもことし地をとりかたきをとこん八その文をく
いさまてもしいれ侍らば朱をく誤字を改め圓象にたまひ
く美とおしかくれる侍のかくのすられまさたるへ西日のうら
みや月ハ西郭の梢にいくなきし郭公の二声三声軒端に落と

啼けるに客ハあなたとて外に立出あへしハその声の梢につきね
くくてその後花鳥のあとにこそえされハ我やおきまさきれぬるかの
人やおもひゆるしおしかりくさるさにあたりのこゑのかなしさ
みそなはれ申したまもとこひくいけらにうちゑしけれは補せ
川邊の五十串雨にさかりあかりの摘子にくらる子らる小笠の
風にさやかくれ二星とあつ俳席ある盛し例の人の気むき
とて外花さしもれとてらきさうれハ世におりたいの外の変ハ
なきものハ燼余のたらるをおさまらしされとそれとく綴ぢは
まぬらく世にあまやけにもうとあくなまじあってさをに事の挟合
まつ所この遺篇をすり巻になおそれるしかくむそ白
ものしけるハたまく不庵の白河ならしも自畫の句ハ挿木
侍りしはよろこ不庵しとの意あるへし此木まるし後にとらむ

[illegible]もらくハ子ら懺量にもく摘撥の功を
[illegible]るの[illegible]をこゝに明を冥てハ[illegible]
めたく明をゑ以てれ世上の人千和つ国て[illegible]懺
悔の一言をしかん[illegible]

東都　一具道人

春部　案首

羽[illegible]の梅や[illegible]
白石城主の家の[illegible]の未だ[illegible]
[illegible]
木[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

わく葉和を山の袴ゝ　中務

七夕の古朝ぎき　梅の香

月のちるゝよさハ流　梅本の香

ゝゝるゝ袴をまゝけゝ

あゝきやむのゝちのふゝゝ

西王母賛

さゝ姫の乙の君ゝ　ゝれゝ

松吟亭

佐保姫の春ゝゝ　汀の松

栖峠客舎

乙姫のゝ白の歯　朶ゝきし少者

川ゝ女のさゝらハ咲こせゝめゝ

大津孫ハゝゝゝ　ゝゝの

山ゝゝのちゝゝ　ゝゝ咲梅

丈ゝゝゝ　梅川　茶ゝ木

梅ゝきし　ゝ

ゝゝ　梅咲ゝの土佐日記

むゝ女のゝめゝゝ　宿のこゝ

探題二句

春ゝゝゝ　梅の花

ゝゝゝ　ゝ

春ゝゝ　ゝ

ゝゝ　ゝ

うくひすの啼やめてくきしをの月
雲をわけ　こゑはるゝ　秋のゆめ
白うしの廣ハけをのゝ中ゆり上る
ところあるゝ
稽儀ヤ　ちくきの茅ハ　浪も青
のゝのする　渚も　きねるのゝ
雲を鞠て　布ハ　ふるゝ　猫の書
神の京をゝ　あまゝ　ゝ　麦の麻
麻ところゝ　きもし　きの　ゝ

嘆入のれ　ゆ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
雲ゝ　ゝ　ゝ　青のゝ
この白ハ　ゝ　書ゝ　ゝ
丁寧ゝ　書ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

涅拌金の春夜言紙蘭若ゝ
灯のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
粥の箸ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

茵やもうゑゑく流　埜ろゝ
あつれ子の䕃きのきりるるとしま
かゝらされた巣免佛のるゝ所り
あきこれ鈍くわしあれ気とつ雫
櫻の法際すゝれ橋ゟ八むかのしきし
苣のゝね但きの徑なりゟゝり
士朗之系元五形茎より　まひおくき
此の句八一時史奥の又すみた多海
扇枝ゟおやきしらゝ人の夜留
烟らちのすらう白さんや　まつのらせ
木うゝちや風出もとよ山の本つゝ
門茶の寺吟ゟ何らしゝ羽移をまかゆ

阿陀ふろき德せし火のにや嶋ちさ流
みやきゝら蝶のやゝゟ糸ゑし託れと
それを猿を入系八津ゟ春きゞ人ゟ
あるきのみちなきゝえ赤れを
焼るゝものうつゝ老巣　埼る　名
巣乙をゟわくろゝつね　月のしら
飛るゝほ吹こむ家や　鋭らさき
菜のおや街え中の　者の眞
うちふれ阜ふ東ゝ折し　山ふきの
あけれのや凡先志ろきし　花の中
をのあのきのわせ凡ろく　花志ゟ

ちはや女　八幡市　一ぢの橋

木の葉のあはれ　蓼よもぎ

蓼の香や　夜のこころの　わたもきし

四五丈の　ほうのあり　雪ふる夜のむかし

夏部

袖ふるる　白十とうの　あるもこの元

袷着て　ちるのよりあり　咲の梅

蕗を刈や　急ぐ志の　ゆくまま

あれ屋も　ひ俺あるまじう　袴まつ

卯のはの　蕗ふる　こうね　塩ほ　こうね

笛ふきの　白ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

二人ゝゝ　袴まわる　あのと　急ふる

夜の中や　たらきと　ところの　元　木元

弥生末のころより石菓子やなる
ある日蕎麦屋にて物かる老の身の旅情
をなぐさめんとるや東の方へ園にて
入りて庵の窓にさしかる影の寝子かな
其まゝ八つも福地の仙か娘射の詠哉
きりかく山けしかさんとるやうり
こゝの松木きれなくて集にかゝり
山路の御香に夫まねきあはし
菊に色流れもなしきくしるめぐ
鯉鮎や西ならて行く友達まくら棹
かわ女の鮎釣る糸八なかしける

菖蒲湯やまつかけてし風雨三粒
途中急ぎにおもしきし彼ハ焼竈の
琵琶法師に踏つぶされし八多賀城の
何ぞの畑やまはらぬ袖
青梅の笑ひこぼしゆく寺への
其の自定まる季節のもじとも音の
白きまね
笠峰の人か笠着てし古蒜かな
母の身すりしもも花
とりゆかく只すころや家のやく
松島山の白鳥家に月の山岸路平

家居せる古きやさ風
おもし 雲のみけの神まつり
まつりする居酒見える男旅の
海をまへやさしき梅の影ゆる
秀詩山の深きりける
あさきねの河す八ともまる庵つくり
世何をもここを立ちて花の萩の

旅思

待ちもせぬしらぬ都この花も咲く
余の花も名もなしやとしゐる地をきし
この虫の音もしらるかなるこの秋

すみ田河の奥

芦の根に蘆すきかよう清扇
名の清は八ちきの世を語る人の
ゆき流名のありよのきし花も風
さす浪よさすの詠の清わきる
名のわしらくの

春ことよけても流八ことさうり
舟まみのちくまき影や風の流
庵をちくを鳥のなきひかく家なる庵
竹林人のちうとしてある外帰人
さらぬ人の浦湖に風を涼む
あるさこそまるし上り潮の千鳥

くすのをとしまの川のまるあるそれか
あるなるをしまの川のまるあるそれか
鮒鮒やむかるあるあるあるなるれこ風
棘林の永をとんあるて立る鳥もちん
さ〻ぬるるゆくるるけるつ千ちるる
松山をくゆくるるけるつ千ちるる
松岸山寺よりさらきし坂をの風
ころ雪の與良の目の村雪のあるて
すさ〻るるしといあるゆるる
清のるるむをれるるれるを鞋の猪
出羽と越后の境大里峠るる
寿るも山ちるるまるけを越の山

手間さ深るる信濃川の拝ふる舟渡よ
類ほえつさるる伏やるよのれ
石清をおとろるるるるて
さいつ〻道彦ち六人を白るれ
笠のてとくれ下流ちるるや蓋てふ
ちるる白道彦八上午なり松窓八郎人
なり
唯子のるるるるらやるわは水のも風
るる白るるれるれるれきるる朝のるる
小松金中
昼るれを をのいやき山の上
をるるるやゆる鶴を似る月ひれ

我ゆくみちのさちなれとて只許何
閻梁をもしれんとて大粒の雨の湿
す八峠の茶店まてかけ来りぬ椎ろし
瓢をもちてさゝきをめくれより
かゝゆるようひとさ得すゝめれやくと
うらひやさかなりけらし

あくる皆すゝし　たかまくらの松

神宮寺川をも舟わたる舟合の
中子濁を流し海草の本綿わたし陸よとり
いさゝか舟そのれく絶ろけるゆき
笠を着荊り衣こをあてさる人の
側ゑ扉をひきかへしかなるめさ

又流手しあかの日まろくの日の名泊きぬきて
ろきなるとてふけあり

すゝしさは　笠の傳も　おなし舟

秋部

小濤立秋

旅のねもれまさしらるれよ秋のうせ
きのふちりまきし雨の仮寝うく
七夕の雲の初ろ風　名残　この秋
星まつりやさもあき門のつきまきし
立琴やあの四すくろ　月のふく
星をかすあくろよ　あすの夜ハうれ
　秋深ふるあくら
行くものあくらや　金鈴も　浪の子
星会の夜をれきうく　外の濱へ

とゝまるよきうせの吹あるとて
あるものの便船をたゝふものやある
家くの戸ハたさあるいとさうく
舟人や　捉の七夕の　七ッ起
あくの原や　作家ふ　横ふとも
翁の句もあの地れ　ひとれ　あるハ
ものくとの　子すなうく
あくふくく　あるうまるの　ての同
　牛竹　頭上　あくけくる　頭丈
あるむあくより　十度のする
を撫星　をこのふ　ひのあ　ひく
あるを人の　ふ　康　指　て　鳥　を

すり鉢ひ擂しむ　志の方の宮の
志の方山方ちのくト
来せね俵天下りませ　ふさつ星
三條出れ二里ほどの有石するとして
さる背を嵩こへそほどりて祀さ
到れくよし守且の病い行りてるの山端
するとこのるれ加茂の白らくの
酒田へ廻るく加茂ふ傳のあされ
流りくて　五尺ある所と流子帆かける
日なくろく十三日となりね
都もさく盃の行されも越す山路

新潟

月の豆腹のよすとて皆をさる
萩ちくねろし、蕎ねりちとめの餌
是ハ嚢中の白なりけりや
去年え人の爪も何りく大字子
肝つふさるる出すあさしきを
霰雨子旅しも鬼柳とゆふ
不めるく下りつきぬ秋く世吹ホハ
かるし老家の油所なり
ちるとそわき作し　萩のかけて
蕎麦のす　く八菜くの少すさし
何さるの氣をとらくせ　新潟くむ

月ハ出つさまてしらきの霧さまう
山人の屋声うきしきのあて
ちうもちうくさくきし苅せねの小村か
清掃のちうきうもやうの花
あの声の坊をくさくさくさくもし
走江はすう黒井の向ふく
むかこのちきうをもう芦の中
月とうるくうも種芦のうたしき
隅田川道通るよいのあく
暮方のうくふ暮方の一芦より
捨人の飯ハはやうくふ花さく

花のさく若芽荷の者ハうくれさし
栗稈ヨ日のさすうもや者のふ出
小笠若赤人ちて出ねるを地れ
あれかとのもを地をしうを通るし
岩木山ヨ云ふうあうを作く形て
寝石とヨ云ちれかうう老ウ形
これくまのくしあうくさら夢のを
ちうよ浪作入れあうを嘉の月
的行く位夫ハうねつ中の中
人の声者の木ヨ丹ヨふうきうる
山の井ヤふうちまてうる者の中

あぐ柏といふをわかちてあるよ
柏もちゆ次細木の里よりて
陸奥のあくれ乃ちゝ奈の秋
苗の乃ちゝの木槿の詠を南京
の図るふ伊勢人の賛をふ
ほうの甲る紙ゆの図をあまあく
旅のまく寄ねものそろ
佃しま
親もるね亦の弟やほきの久世
五位夢の位まけるゆ乃
稲つまの一歩るなるね酒の味
ゆるつまや芦のゆまのとう家

まゝまし井ゝゝる田面の
八月もゝらゝ保ゝあの
ほのゝもすき志ゝれ也ゆ
ゝのゆ利ゝや柿の実ゝ寺の風
地蔵の大面ゝ面ゝ葉ゝの
時のゆもゝのゝ細を水雲風
わるとハゝゝゆゝ雑木ほの
りしゝるゆけをゝそあれ風

丁の[illegible]まつ風[illegible]れ[illegible]行[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
名月を鮭[illegible]のたくハ[illegible]
鬼[illegible]
[illegible]
山[illegible]
仲秋末の七日祇園の宿
[illegible]
平角[illegible]別荘
[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
十六夜[illegible]
今[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

みそうの

仲秋無月

雨の月ふるうるあをを月のあり

ふるむ丹ろ濱よつる日八月

土るなりふる世無ろ砧目の庵

くもりうるのうなをさま

名月の素あるるあし十三夜

うを世さうあ世ね宇考老人ら

あくらの春世を去るよりあり

ある青てゆあれを赤湯の理

あもいはけう

月なをあるるうる今月のお

后の月 小春よ時ふをやはら

出白八越の冬再地の冬なる

傘う泉 宿八さうら稲の月

いつの月も荷分あるるあき

てのの月の春の家作る今春の月

世時よなるね長せる春の絶能を

紙性のまくくら入をき

あるの春も出宿やさん月さは

蓮義寺まよ冬

弊傷のなるる春ねうまの月

十六夜の月うねのハ女るの春

月代セ人ちゝわゝと言ふも洒
宋のきゝのむかしに月きき月更ふ
蘭山見ハ蕚をゝるゝ宿の月
山のゝふ里とゝるゝ文字樓の
海ゝゝるゝん山陳する時
晩稲ハ赤ゝふをふむ
稲ゝふゝのわゝり家わゝ

蔦宜注ゝゝゝゝゝ伊化ゝ
ゝゝゝゝ海ゝゝゝゝゝ
雀ゝゝゝゝの家ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

伊庵の蕚ハ株ゝ刈ゝゝ
庵のゝゝゝ折ゝふハゝれ
庵のゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ庵ゝ人ゝ
庵笛ゝゝゝゝゝ水ゝゝゝ
伊ゝの月松前ゝゝたゝ
きて庵伊ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ門ゝ伊母九十齢の笑
十株ゝゝ代伊ゝ蕚の　九畦

柏蓊童仙

初君子の菓子を喜さる

山の図をうちもたるて童仙

喜ふる中皆寺の十四の氣もと世

しるとやうに二濵信仙飛ぶ

ふれうきたりて

仙すれ菓子らしてちけとて仙ゆう

上毛乃中

ちふ郎の祇引と元く菓の秋

傘りてうき世わうをきこの糸

宮忘前

春雨ハをれをのなうきくのこ

客中

昆の香菓の香を嗅ぎ

歩きくるもたるくられう旅のこ

なうのうち雨れう来ぬ菓の宿

秋さうりや谷の筧は地下も

蔭の実のさてもふ糸なやきる

宇多宮利山

山そのやこれもわうちの童を拾ふ

うの歩る負なもたるなもあ

塚の山の甘命よめ作る

山之麦うの麦うの麦ふる小橋の実

至たりの人来る家う梅ときし

二頂法師の住所ハ東谷なれハ

坊の名らす

おなけ咲 秋のれ いつまでもうり谷

初鮭七ゆくわたるとく蓮の後

紫多布 秋をハ香の立つらう

柏崎

町中よねまるる風ハ像ハいと

今ハむし屋生の子 何菜う

ちらくむくのまを行つわて雁

よのるもあるよ

仏ハ去わち夢るや待るふ

負徳う園ろと梦ゆや 茸 山

松蔭ろ ちけハうふ庵くあるれ

を梨のくゆる山家のくるる

ちれとおふ 陸奥なる 紅香の花

画賛

琴ハ月ハ花 秋の山

遊を なるく 谷つけるる

月も梦く戸の秋もられきし

ちれかるる家物集として

よむる 宵くれるる 夕 少雄ハ

めるき 家なるもう場 ほるく

きすも書のれ 今の世ふるる

鳥のあのたうゝ拾ひあるき
まもゝ秋なくゝきえる蟋蟀の声

小ちゝさし指よう思素小袖とらふに
うゝ風よをゝしきとちゝ乳高く
さゝのちゝきちゝ

芦垣の萬年草の鳥よ抜はおハま
うき鳥をのうゝとつちゝれ秋ゝ
ちるのうゝ日うゝ日本新の蔵のふと
せもちゝらゝの椎谷ゝ椎ちゝ
袖の上ゝ高ゝ山ゝ里人ハ多也
ちるゝ多のゝを今ゝまちゝく

芝の葉ゝ山のたゝちる蓋ゝ
ふ風すゝとゝらゝ

蟬ゝよする鳥ゝ小ゝ
むさゝの山ゝ人ゝ家
ゝ芝くちゝ山のゝゝ
乗ゝちゝ紙ゝ見ゝ
太田原の宿ゝ入時

秋ちれすゝ蟋蟀ゝ

冬部

松かせの東吹ふるしくれ哉
冬ちかの宿りや冬しくれ冬ち
沸さる富やしくれの下り宿
たくひなくしくれて冬来り　茶枕
しくれ来や山鳩とりかくらとん
哀何とすつきそく　素休　太呂か吟
の宮きうりあるし刈草八机て低き
野しくれやささこの中温泉谷かな
今ハむかし
梅も哀も焼し　比せの冬かまし

冬の夜や御香のあハくわの花
鮒肥ゆ冬かまへこや　門造
ちさ若忌
何まう世をしあまふり暮の出の跡
枯枝をしけめぐさし何まうしも
りふの気まあまれ々画て
しくれせうし萩の暮のきえぬも
こき角みちの中に　吹井の雀も
あのれに切あきを取られ叶きに
けまを呼ふ
冬の朝日の何ハれ来くりもさをはな

類亦多画眉多自多杭葉
姙百合也ますに体嗽聖八杭多
埴蜜ゆる少ちも蔓多の時
他奥の災多かりし時
佛達をしるの蔓多のさま
抜ふる八葉ちりをすべ多乳
なるり作より眺望
蟋ちるる舟多をのちり
あるるのるる月八ゆるる
生ふ八ちゆるるのるる何ちる
出羽のるくおゆくるる

鼓の巣をしこ殺をを殺老のちち
十時蒂るゆるしちれさる強
ちちちちれさふるるる
都るなるれを浪のちをれ少
奪殺のうしゆるる難るる
ちちちる徒ち芦火をちちを
馬後ひうきる
灯のちけハゆちれ麻のる風
ちる雲を雄嵯の巻ハるをにて
ちる組ゆあるれうきれ
芦電をし廣垣ひへをのふる
時るのまをもるちる雲ちる

ふり雪の寄をたとをうひとつ厂
　池魚の御子かうしきし
琵琶をかくるまのかかり家の付き
正月ちしたまるるそこ気の虚楽
あれらへれのそやらしふる何ぶ哉
粗をさるきのせしうろう浪

換骨奪胎

電車曳て挑し薦せ馬箕鷹
轆轤より電車をぬれ袮鋼手かな
　岩園より小千谷くれ途中
漕るそとはふ声ちるしうかしの詩

一あさの客をきけちちや雪と月
きてまらし名つる自八月と雪
　一音々両葉いまだ咲せさ旅
　白ある屋し
さむとろに旅立てるや市の月
　赤湯の里
松うせや湯ゆのさむる温泉作
あるときハ松の倉をし着るややう
君えとや楕き底山さ窓のまく
ふつこのや芦火焚家の雨のある
笹のみ竹火梅にふつる何ぶより

はる雅もあむ位左てうれしさね
芦もうほししはるの隅田に
すさしりなくしとろくきんに霊は
徒歎は何かも空せの茶気変
水仙や歯朶質むらうかれの子格風
亡人の手すのそをくれあるもり
素月法尼とよまれし当笑尼は
耕雪ちかにはいちかね予八希皓亭を
あるしとす
あれもね人のうつまは年を忘くす
今八むかし越の乙年らもまに
何かうかさしの鳥也とまま子

ことさまにて今年八尾張の不輕法師
と出羽の本赤沢との呉波の浦山
条の里をとまりて年をくりて徳を
まなふ
ひとつとし何やうき老て年をより
先立ちし跡を瞭なしる八山中
又にて松をき流観をすなめし
暮の夜なや好縁れさ句子
川つくと田ふきの咲くするを中ち
人の子や春をむかへて折とるふ

雑部

世に名高きあとのおもかげおもれ
ば八あれはこそ伊勢の海の
象潟のながめにおもむく自然を
くみ入れ今は八ッ橋の青葉の上
はへつるを今来ていまきこゆれ
まことさらに利をむさぼるの
一言より潟のながめ田を耕して然周
峰々のすきをしもひるがへしまの風
峰くの松もむなしく子満ちる世の
つまの風なりけり是何するまでも立去

のどかにしてさわやかにしもの一村の
の端あらくたちききこえる人の隙
むかしの世になりたる風ひとゝきは
秋のよの夜の月

冬されば流るゝふるくの錦をたる雲
川波の鳥のくもりゆくとしよう
七ッ目の哀の後賛
のこりても月の中なる人をむかしのし

如斯よりて言葉かの意をくんで体と変
しかるに先ずそれはいまだ夢覚く
後のものにてみずからまつる人手
以てかしこ誰うれしめよの事の迫
来くの自分の言葉のわんぬさを作ること
あるべく不吉文字を捨きて不祥文字
と聖とを出数の如しもとより恐れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乙未 秋七月

公藏坊田誓

乙二七部集附録上

春之部

元日の梅の下もや　一旦坊　西月

門ゥやちつ日きらし　春のく　呂　有一

西楊の利益あり　初日新　梅室

友之楊梅の初日　[illegible]

海先の初日　[illegible]

[illegible]を初日の序　一臭

[illegible]あるの一くるきや花の春　[illegible]女

[illegible]上巻の[illegible]代の変　[illegible]上　一丘

牛宿の尚鞠を見る　[illegible]　田華

雑煮ふ自もらう物　祝ふ　江戸　水狐
むら起ふ喰へハくるる　雑煮い　京　方英
ゑつ〳〵ゑるる　礼者ゑるちや　京　雀　二本去　忍山
年始〳〵　碁盤ゆ〳〵ゑる　仙年
掃ゑ先や　礼者ゑゑ　埃先　曰人
地すゑ家〳〵　葬ゑる　葬の礼者い　越後　万里
出芽ゑハも　ものゑおきれわ〳〵ゑい　下野　錦哉
居今せて　出芽ゑ　ゑ　角カい　宋阪
乳母ゑゑも　添ゑ　出芽ゑ　寿ゑ　アヽヽ　一翠
吹消ゑ　ゑ　物　礼者ゑゑ　汐路
太着ゑ　ゑ　ゑる　奥遠い　イヽ　有鱗
ゑつ粥や　ゑ　習ゑる　二幅対　磐　巨童

春ゑ来ゑ〳〵ゑ　二毒　鶏　水戸　昆巣
首切〳〵ゑ　ゑ　ゑ　

京うけの[illegible]ゆ羽の[illegible]　偏萬　祖[illegible]
突ねの外へ[illegible]ゆ角やき　アキ　雪頂
喰ゐ[illegible]る喰ゐ[illegible]るゆ松の[illegible]　巻　芦帆
蕎葉やさ[illegible]　帷草
蕎苗と[illegible]の坂　椿海
蕎菜の[illegible]ものふ[illegible]時斗り　古翠
喰つ[illegible]ゆ肩の上[illegible]角力のみ　田華
蕎苗ゐ[illegible]て[illegible]神の重　護持
ゐの[illegible]ゐ[illegible]の上　松巣
ねゐ梅う[illegible]男ゐ　可布
ねゐ実のち[illegible]偶国[illegible]　桐雨
根[illegible]ハ[illegible]ゐ[illegible]　小松史　三　ちら

出た[illegible]て袴ゐすゆ小松[illegible]き　閑左
ねの[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐの[illegible]　米井
[illegible]ゆ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]　茶静
舟待ゆ志ちどん[illegible]ゐ[illegible]もの　越后　五竹
多宗の茶[illegible]ゐく[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]　市風
万ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ芝[illegible]　春戸　松秀
豆人の中る[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]　梅室
万宗の神[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ茶幕　大巣
ワウ　茶　橋　[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]　五ウ　欽好
七種ゐ　[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]　林曹
舟義の[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]　柳多
半分の余も[illegible]ゐ茶[illegible]ゐ[illegible]ゐ　糸木

よろぬ足袋拵て房もわるを掛　三上　吟象
雑炊ろうろうもあわわ菜粥　新浮　門湖
やくそくの外も蒙るる蒔の　春雲　杉湖
芹つくやせ流るを世ゝ辞業も世す　秋巣
凡はゆるとあるうわの菜摘みろう　貨僕
七ろさやを灯あるのるる里　戸　英山

三郎も机ちゝ生る徒月の　幾信　棠郊
日を人を冥の月を知のろう　茶静
日つのろうの外の日のろう徒ろの　舟　秋臺
四月が正月ろけのもあゝ　多　多安
正ろやまのろうるいろうさ　祖不

四月やもきれろせるふと客　松秀
留ろのゝて一日八春ろる徒月の　五韻

標札の書ろうる　在力七　芳谷
加梁のゆろうまるを春の　忍山
芽をろうのる鼠の主春の　一甫

春のあ我り形ゆ陳化を　吟象
西ろもを汗の下ろう夷の水　下井　曰人
流も来るある先妻妻のあ　子行
ろうまあるゝゝろうを体の水　太翠
乾ろ年やをろ上ろる春の海　対芦

けゆの音塩わらかて面影　俳年
切ぬゆやせ杭木の中をみさやす　一楊
大舟の つふ〳〵ふ舟せいのわ　山堂寫　芋の
孫の新あさりてさう〳〵ぬゆ　涼谷

凡蔵〳〵のおさや山と蔵の〳〵　杉僊
まて沖をうむ仕合や沖の〳〵　法奥　一之
ふきの〳〵仏形〳〵蔵さう花たう　一肖
拾ふわ〳〵ふ〳〵土筆のきら〳〵　バヲテ　陶煙
ろ〳〵て蝶のこえろう塩の〳〵ち　嵐外
蔵の蔵あさうつきこうや　俳　あてふ　量山

ちつ蝶やをわすれ〳〵ちやあれ蝶　風朗
日表へゆせハ蝶来る　あ〳〵蔵　蹲　著　妙水

十万坪晴雪

二月と雪のはる〳〵のの日和や　此風
春の蔵えつぬ先ゆわ夫れろう　カヒ　百蔵
饅頭をむわすあ〳〵　二ヵ条　古翠
みきやろに雀のあれて夷の月　波久子
猫と夷ま蔵ゆ彼岸の月蔵　久瓢
〳〵蔵の風をせんさゝや猫る　イキ　汀左
そろとの川を只怖す彼岸や　塞馬
タ〳〵れの雨ゆ来ろう　西行　忌　一色　ひさを
ねむろうもろるに蔵る　俳　小圃

但藥食の兩や大うと神の上　昔阿
ちつ午お二のゆまちつハゆちつ　祖乃
初午をうぬちつや榜のわちつ初　袁女
ちつ午おちつ食ふ中を飛ちつ　江戸月桃

あちつちとちぬをちつのひ食ふ　名山
拓義のなちつちつふひ鳥乃　米井　友之
驚茶ちつ八の榜とちつ　ハヒフヘ　ふ流
四五ヶハを巣ちつ食ひ　モ上　稲洲
ひ食ヒ面の只中目ちつ　徐金
折角と巣をちつ俗ハ来ぬひ食　杉浦
田の土をはヶハちつ茶ひ食ふ　ゆ子

ひ食のちつ八飛ちつ　古翠
あちつ午の羽をちつけひ食ヶ　也雄
丁ゆちつ名飛ゆ只の食ふ　詠海
立殺をちつちつ飛ちつ茶の丁　丁紀

池ちつを何ちつちつ茶ちつ　謝雪
あちつを時ちつを言ちつし江の地　席太
初地土手を堰のちつちつの乃　八キ　甫山
ぬちつちつ村ちつ面をゆちつ　八ヘ俗　友翠

ちつの面腐れ美ちつちつ　米井八　六樓

[illegible]山の[illegible]あるうう　土翠
さめ〳〵とたる面　[illegible]の良　上毛　西行
たる面や　[illegible]　米芽
[illegible]　史千
[illegible]　白起
[illegible]　林曹
[illegible]　芳谷
[illegible]　丘の家
[illegible]
[illegible]　一肖
[illegible]　蕭之
[illegible]　祖京

義入お　[illegible]　布席
[illegible]　古翠
義入の　[illegible]　友之
[illegible]　二丘
[illegible]　阜池
うゝ[illegible]　[illegible]　[illegible]　

ふくろすや 呂とりみちろく 兼忍おき　六十
栄をおすらしとくすや　傘の　下　子輪
茨多やおくさし 陽るのるもて 食せ　田華
ふくろすを生 陽るり 鶏の羽つくろ　松秀
味噌汁やらつかすゆろ 蚤ろる
栄の 晨て 吸きせぬ 如戸ろ 二五
ふくろやや 兼 ろつハくかみ 如 仙堂僧　無角
茨多ハふ文 産ハまのはくり　夕山
宇自ろすの 明とあくなちくを　丈翠
義 川や 栄 下まる　杭ろ　上神　壺半
茨多おたつくぬけろ 奇ろる　三枝
ふくろすの 鼻先をふく 神風や　丰酒

亀井戸村まる
ふくろすを 陽せろ あを はろろ　久瓶
茨多の 協とろる 茶の木や　如ろ谷
栄の 寿起とやすく 義 信 居　一具

矣 栄とおくやすや 義と 梅の花 越中　木司
最おの 蚤 蚤の 寿や 茨のくを 戸　宣草
疎のふを の先る ハ 左とあろ 多　茅山
人の下 鉢ふ りてあろり 梅の花　立韻
盥ふと 臼 ふとさすや 梅の 瓶　禾木
村中へ ろりるや 梅の切 通　雨竹
ふくを や 祖 栄ける の 壁 の 穴　八夏　鶯宋

地の梅のあるにしてふるの生る花　友之
神のくれ屋のゆ余ひふるくるゆ　月峰
とるるとと咲くと声あり梅の花　涼谷
小町ものや草桶の上ゆ梅の香　太祇（江戸）
何くるる人見ぬくるめや　ゆ輪
蒼ゆハうすゆさして梅の花　苔子
をゆゆ咲くくゆ　法くあらめうう　石府
賽物を法蒼くわくくや梅のむ　庚年
二本何れも社めくし松と梅　詠陽
余土子島のたつゆおらめの花（水看）　孔正
鯛きれハるる梅うくゆつ結ま（今は）　薪水
下戸とるふうくそう死くう梅のあ（畑）　雪鮮

ちちちせのちやあくうう梅の花　斗芭
梅ちくくや伸くくしるる　肝の月（肥）　山雄（土佐）　擔月
万日の屋のひろくや梅の蕊　一之
蕊ちちくくく香ちあつくし梅の霜
斤桜ハ汝ちちや梅の花　富木
ゆのちち嘯ちめや蒼の梅（尾）　炉扇
さくくより義理ゆ深ゆる梅えや　江月
二階ちくく莖の通ちや梅の上　桐雨
ゆてつるゆ戸ハゆくくと梅の花（江戸）　一澄
梅の作腰郎ちちくくちくくと　一梅
花の蕊くくくくくす　梅ちる（巻八）　ゆ子

[illegible]の[illegible]の[illegible]の

芝の生姜市の千木箱ゝゝ
まゝ今先ゝる星ハあるまゝ
神明の梅ゝ餅ゝ屋めの子　一具

[illegible]山ふきの打蕾のやゝ　八文字　素封
一ふきの巡ちゝ蕾ゝ蕾の花　秀外
きてゝ実ゝ三年動ハ柳のむ　思山

金中

赤ハの八柳ゝあるゝ日和田山　一具
葉の花の俤く蛇のゝゝ　大梅
るを抱ゝ人のつゝらはたんゝや　柳海
ふゝるゝ日をゝゝぬゝゝや蕾蕾　五流

ゝつゝ火ゝかゝゝ沈む沈丁花　イハキ　瓶乙
芦鞠ゝのゝゝのさすや波波の爽　一肖
赤波ゝわつゝ丘ゝの波ゝ　思山
笠ゝゝ蕾ゝ蕾ゝ捲ゝくゝゝ　史子
蕾の柳　菌代ゝゝ　篠流

鯨ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
蕾蕾ゝゝ神花ゝゝゝ花すゝゝ　一具
細ゝゝ法ゝゝ頼ゝゝ　水戸　故園

ゝゝ森ゝ分ゝゝ猫の書　久藏
蕾ゝゝゝゝゝゝ猫の蕾　而后
蕾の巣の河ゝる上ゝ河ゝゝ　五流

[illegible]　　大梅

[illegible]　　一肖

[illegible]　　一蕉

[illegible]　　風朗

市の雑[illegible]　　吟窩

[illegible]　　涼谷

余波の雑[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　氷鈴

[illegible]　　檐月

[illegible]　　春袋

[illegible]　　魯恭

[illegible]　　梅室

[illegible]　　一梅

[illegible]　　秋臺

[illegible]

[illegible]　　桂九

[illegible]　　湯鈴

人負とうえねる花ハ咲ぬるう　星一
雨の雨　寒とあるて梅の時　麻太
花の梅　嘆と言言上戸ろ　閑湖
花のうち　傾ものしき屋風か　嵯峨　蕉門
もの山　持待ハ誰ろおもひつき　芭蕉　玄子
年ものよ　抑おろす　花えろ　ふろ
田家
何ふうく　あはし花ろ　臼ろ　拝　一具
玉川の
うれ生さうう　鰍や　花ろ　、
鞍岩　梅ふと　ふるる　ふし
陶ちく　かさろの　鮫ろ　花えろ　梅室

雨一點花一掬點ろ醸作
満山花
ちうやろ　鮫ものつ　大梅
胴欲ふ　花ろ　ちうう　雑の市　擔月
花ハ　ハとうわ　人のゆうう　義女
ふ　ふうう　ふうけ　ふうう　ふ　ふ　ふ

ひて乃ゝ〻ゝ赤刻乃る比
ゑのゝ〻きゝ俄ゐゝゝゝ

山起す　雷　ゆゝゝ山芝の雲　一具

春ハゆく春ゝと起ゝと人れ雷　思雲
ひゝゝ乃ゝ佛の花業立ゝる　有水
帆ゐゝせのゝゝゝ初日和や春の汐　石鳴

隻之部

格ゐゝゝゝゝ日のゝすや男衣　流芝
紙持ゝ人ゝゝ先ゐゝゝゝ　吟雨
ゆゝゝてゝまゝまゝゝるや天衣　一市
ゝゝゝゝ掛ハ和ゝゝ　久瀧
ユまする机の向やゝゝゝゝ　雲関
絶ゝてや入ゝ弁て天衣　蒼乱
ゆゝゝはや人ゐれゝゝゝ　氷鈴

乃市の一人二人ハあゝ世ゆ　今東　芋井

產神の戸を明るなり　袷小
ちけん養氣日八幡ゆけるを　袷春　果六　木公　庶太
袷の衣裳ちれハ春也
何の形ちとるの根元する　袷ろ　多安
人物の袷と入れる小毋ろ　水鳥
あつけとる内人まくす　袷ろ　謝堂
袷着し負ちせの春る角力　氏枝
多の餅ちとるてうある　袷ろ　松浦
也虫て　袷ゐ　きき　西切い　有難
宮掃の法くもる　木綿　袷小　道流
西元あるく也て　着ろへ　袷ろ　松雫

灌佛や小皿あるく　辻袷ち　君山
灌仏の法るの印る　世界ろ　松浦

棄のちハるるもの七月のあるろ　田華
頌徳の法ちろ　月小　汀左
傘を体弦る者　四月ろ　天雲　田風
多仏の虫ろ印あ　四月ろ　古翠
多養のちましハ
無ちとちろ　月八ろ　一具

拵竹ちちてちる　社毋小　芳谷　在曼
拵て来ろ廊下ちはるちんい　米化

上毒ちく鮮ゆうが成ちんや　石明
ふるるる日ぞうまれて牡丹うち　丁知

一甫亥の子

苔葉の元のとふる　藩の戸　布席
苔葉や鶏の角自　土ちうも　涼苔
巴五杆の山家苔葉　日和ゆ　宇多

和の花み美人やうき　祇ゆい　ハ方テ　高山
和の花や杉ちうれハ　おさうも　蒼虬
和のむの外ハ義木のまうり　蕉素
うのむや野をやむ人の御ちう　大柳

和の花やゆ伝ちの白ちみ咲　地
きうみのれて咲や黄の花　田風
咲ふりみる咲おさうう黄のむ　秀外

ろきうるい咲や鶏ゆ地のる　スキ　文徳
めうるの楊枝ゆ咲やうきのちる　白川　風毛
次の花枝ゆ咲ちうすかちうちと　杉儀
灯やうう世て多寿みうう　牡若　柚室
袴むくうう孤ううのや　牡多　春泉
和花つちとうう八廣う咲ゆ花　芳谷
枝西くうう見ちう花くうきのちと　沙鷗

[illegible]　尺雲

[illegible]　我竟

[illegible]　蹴兄

[illegible]　国華

[illegible]　晃翁　知撥

[illegible]　栞人

[illegible]　芳谷

[illegible]　馬年

[illegible]　江三

[illegible]　栗笑

[illegible]　惟草

[illegible]　玉扇

[illegible]　大梅

馬頭娘見米囊花

[illegible]　古川

[illegible]　謝堂

[illegible]　湖山

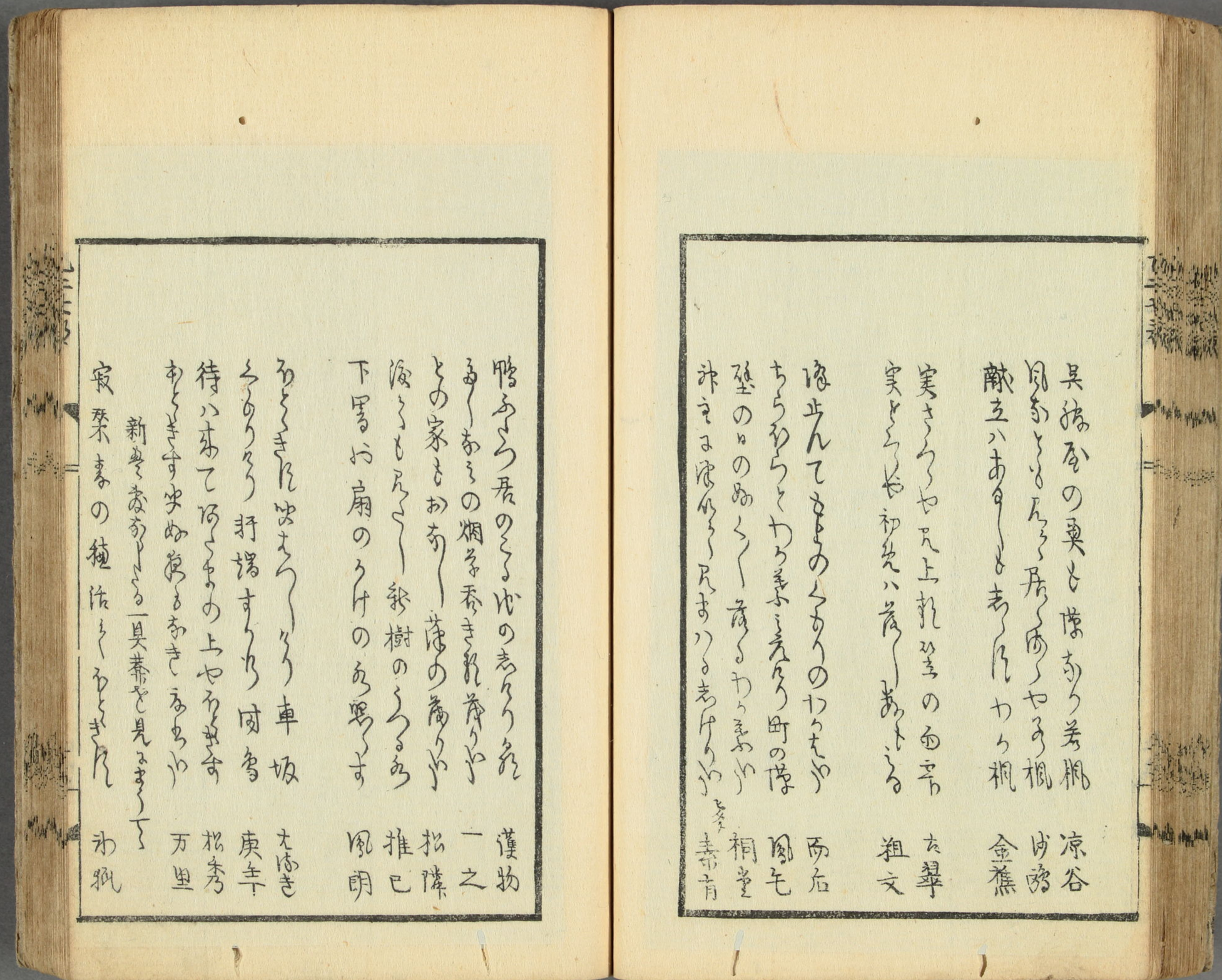
[illegible]　月峨

[illegible]　布席

[illegible]　風朗

[illegible]　井巳

[illegible]　負旌



具塔屋の奥と陳ある芳桐　涼谷
見あるとる居るゆやる桐　時鳥
敵立ハあるもの居わら桐　金蕉

実さるゆや凡上乾坤の面　衣翠
実とるゆ初発ハ義あるる　祖文

後生んてもものるるのわたや　西石
ちらわらとわら芳ふ芳る町の陳　風毛
塁のゆのぬくゆ義るわら芳ふ　桐童
沖を波ふるる凡まりる表けるふ　春育

鴨ふるる居のるゆの表るる義　漢物
ゆゆあるの烟を春き乾春りふ　一之
とゆ家もおあ薄の蔦りふ　松隣
波るもるる秋樹のるる表　推巳
下雪お扇のるけの表雪す　風朗

るるきれ決るるる車坂　大ふき
るるりるる打塔するる団香　庚年
待ハあてゆるるものの上やるきす　松秀
あるきす安ぬ義るあきるるふ　万里

新冬表あるる一具春を見るまるて
寂栞春の種佐るるるきれ　沖猟

面白き事やむ時なくの花や時を
沒こちらく　也　郭公
なくきすゝ　ゆうゆう木のきゝゆり
初雪　何とも一夜　ちらきます
庵の柱々のもらるゝ時を
路中の時　寒さますや　郭公
声々有く　負おさゝるやなきます
時を　新や　歳ゝと　雨ぬ　埃
ちらきれ　きさみ　烟の　あわ　角
ゆゝを　吹れ　きらせん　時を
新家ハ　参あり　家　ちらきれ
新の　伐木　もらあれと　郭公

出羽羽上　湖條　春風　康太　露泉　五城　宇客　曰人　枕下　友之　梅室　砥山

緑日の　行ゝ　ちらあらきます
ちらきます　時や　ちらあらぬの　木木
老ゝ耳の　なるゝハを　郭公　拾茂
なくきすゝ　笋　ゆらき　家所　大柳
市茶つゝ　改　れも　おきます　田華
時を　楷の　うゝ　家の　ちらい　つきを
供ふきの　ゝらを　時を　民校
ちらきれ　大師の　遷宮　洲　芳谷
宮家ハ　森の　中あり　おきれ　沖弧
ありゝと　ちゝ　宮や　時を　一之
はゝ　ゝ　川や　ちらきます　阜也
ちらきれ　時や　眼　異　木の　下　講柳
三奇

甲午葉

有卦みゝ入ゝ左の耳ゝ書きす　麻交
ゆゝきゝ書す上駐ゝ花ハゆゝきゝ　拖俤
木ゝ家ゝ業ゝあゝ祝し郭ゝ　嵐外
ちゝ俗ゝゆゝとゝあゝの
木並ゝ陰ゝちゝゝゝ久ゝ見
ゆゝけゝれハ
大宮ゝ宍ゝあゝゝゝゆゝきゝ　久藏
うゝこゝゝゝふハゝ書ゝ二ゝふゝ　大梅
年葉の拵て机兼ゝき松奥ゝ　沖狐

晴の一番起すゝつゝゝ那　涼菊
ゝゝゝゝゝゝ一ゝゝゝゝゝ初松奥　露泉
売ゝゝゝゝゝ持佛ゝゝゝ初茄ゝ　松什
ゝゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝ粽ゝゝ　祖不
粽ゝくゝ床ゝちゝさゝ　禮ゝゝ　芳谷
ゝ僧ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ礼ゝ粽ゝ　烏峰
ゝゝゝてゝゝ上ゝてゝゝゝ藏ゝ　涼谷
ゝゝゝ六ゝゝ朱ゝゝゝゝ竿　石府

蒼うけて婚待宿の菖蒲うれ　吉翠
傘さして家ごとみ〳〵七菖蒲売　江月
今日のあやめ名ばかりでも菜の葉　大梅
蒼〳〵開るそばから〳〵菖蒲や　田華

明やすきし雨やすり鉢のうの水　梅室
うらあの森比を立わ〳〵肌ぬれ　友之
うら夜の月素ぬけまはりもり　呼牛
短夏お傳るハ雲ゑ明るまま　左琴
うらあるおらまも初暁の明りや　虚白
四畳のくらもちうさぬしおめら拙と
おもへハ孤竹の新もうれうら

夏の夜ハ蒼虫の香ゑ明るより　一具

肌ぬけハ孔ゑさハるや栗の花　夷則
飯の少も世ちけハもえ月のも　お丈
さけぬ〳〵ハ何のふすもも枕の花　栗笑

下りきりの恨や苗とる夏の青　柳雨
あらハりゑ苗とるや乳ゑ　秋巣
田植見ゑ明るく〳〵ハ足袋掛　米芳
ふつ〳〵と植のる田ゑ月夜ゑ　大梅
飯団ゑ田くあのちうす社壇ゑ　芳谷
　　武校

山々の如くに声よきし田唄うたふ　涼谷
娘子は茶引うけて回るあいれ　秋木
枚ゐるうく人を築る田植うたふ　西阿
夕餉ゐる呑り薬用や田植ときし　而石
今やうの姿もうえすゑ苗とり　紀雪

あうう素陽おるものを一ツあるる　席大
切通るる巻さ刻や牛の面　椿面
ゐちちやや一光陰ゐる巻　太樽
あよせてられハ人のるるる　雅巣
旅人の所つけと笠ゐるるるゐ　赤月
きけるる傘の中より雨巻　夷則

蔦るるときるる破れ放するるゐ　千葉
女ゐる流れゐ稼ゐるるやゐの所き　木石
森うるる煙ゐてるるゐの秋　民枝
麦の中切るる比五軒の町家ゐ　丰芭
切角らるのるる五月の晴月ゐ　呂多美
大火の後江戸ゐのるるる
ゐるる人の家ゐやるる
むつまるるやゐ樽を角るるての業日士　涼谷
切者るるて麦ゐるゐ秋の夕ゐ　古翠
切者るる潰れゐれるるる舟　阜也

打ちて煙りや坂きを金し　生姜
坂巻きを引くけるし料理人　夾則
坂の中く指ものす飯の白さ　麦女
翌日の用ゐわるゝ塩のうち　椿油
坂屋より借りてせる海の花　惟孝
坂巻や時もたつて森の中　涼谷
山陰しとあれまよる塩の破れ　久瓢
河のせるるるる坂巻の紅キ小　麦女
とゝるゝとゝとゝて紅や茅の塩　芝石
あるゝるる這ひ塩ゝ振ひゝ　蒼軋
坂ちゝや通ゝられも通ゝ海　巧芝
浜舟の坂まあるゝも八軒家

米芽
一之
月歌
石戦
坂蕪
芹舎
柳雪
玉扇
曰人

ゝもあゝとゝ初茅巻ゝ立月ゝ
ゝあれてはゝるゝるやゝゝ
ゝるゝゝゝるゝゝゝのゝ杭
ゝ目鼻ゝ赤ゝ雑牛
ゝ不二八きのゝゝゝゝ
ゝゝ雨や皆ゝゝゝゝ蛤
ゝゝほれゝゝゝ
ゝ雨の中ゝ後ゝゝゝ
ゝゝられゝや牛の後ゝ

牛のるを袁てらきりやをれ牛　曰人
牛のるやゆるられハ秋のかる　田華
わら牛ゆ風をうするひるを　涼岱
わら牛やゆの奥るゆの物　方月
牛去きる　掃りわ牛の義をや　門湖
傍るものるるをきて牛柿る　柳考
牛るるゆきく居て碁盆や　涼谷
牛柿るしすや風も一秋る　史十
牛るるしおを夕るを言斬　日光僧　蓉蘿

夏の月　義の夏わ　木のかるを　古翠
おるるるん茶をゆるや夏の月　時柳

春るるかりるる　春八まるきる　夏の月　玉春

良自上人世ゆるをるをるる
清の月のるるるるるる
のるるるるるハ梅尾山の木の芽を
時ゆ袁ゆ袁ゆ掃花のちを
まるのふ秋の月ゆるるを
のるるハ月ゆるるる夏ゆ
夏るるるるるるの泉をるる
るるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるる
て袁の袁るる夏るるるる

ちらしきるものもあれハ
ゑのもあるゝ　梅ちる百合の花　大費

良自諱龍鞭和尚奥陸福嶌
大田寺住僧也一具愚春之法嗣

いつくゝ咲のようすや百合の花　玄子
ひとよ世ゝ蘭干ゑのもの　松涛

つゝゑのけたゝ所あゝ蓮の花　金蕉

古湖
袖堀や百合を抱とる手　一具

あつさしのやゝ傘つゝ舟　苔之
ぬらせの中ゝあゝ暑ゝ　青芽
ゆゝりの葉　ゆゝふなつさゝ　田華
蓮の中石塔言きあつさゝ　太瓶
梅村ゑ西月ちやゝあつさゝ　松涛

男林へあゝゝる人ゝゝ家ゝあ
後連ゑきゝゝ対をきゝゝ
ゑ百日とんやゝゝ
稼さけゝゝ立ゝゝ行衣ゝ　久藏
きゝゝさゝや佛ゑゝゝ東の墓　蒼夫
きゝゝさゝる掃ゝゝ深ゝ　旅の尼　京谷

きゝすさやゝ細うして乱れたる奥
まつさきもとく　景八分もとゝ夕ぎさ
り雅を分まのたきゝ夕きゝ
涼むゝ新の出家ゝ　今年相　三蓋
朝ゝの地ゝゝゝゝゝ　手巾
きゝけるゝまつの奉行ゝ　蕉素

夕立やゝ立ち傳るゝ　赤蜻
夕立や恃ゝ地起きも　去子
揺る著おゝゝ夕立西ゝゝ　蓼洞
拾ゝ来て行雅吹洗ゝきゝゝ　芝石

東内八火ゝきゝゝ清ゝゝ　丁初
あゝゝゝる梅の実茅ゝゝゝ　月蛇
沖のゝゝゝ先ゝゝゝゝ　蓼九

虚空呵ゝ三笑何不見汝鄙下
あの清ゝゝゝゝゝゝゝゝ
よのそゝゝれて
蟹の目の伊達ゝ作ゝ桜清ゝゝ　一具
蓮ゝゝゝゝ見れも彩ある蓮の花　山乗
神すゝや今きゝ蓮ゝふゝゝ　大梅
蓮ゝゝゝ日の中のゝの信ゝさく　久瓢

ゐるうわや虫札串のうゝゝつく　双甫

紫陽花のあるき樹くの葉かろ　苔の

あちきなや柱うゝ苔る今朝のあ　涼仝

苔の下ゆかちる咲ね大井川　一具

あるくあるき夏の掃除も秀ゝ　業祈　馬蓼

大和めぐりの時

伊ゝの塚ハあゝうせしの声　孟山

鰐口の緒ゆ声あり塚ゝ　上蓼

帆ちゝゆ毋ハゆるのゆちしの声　椿海

牧の牛ゝ　ハゝ　ハゝ　ゝき巣ハ　伏雲

圍ゝ見ゝ　ゝき巣舟てハゝえぬ心

猶牛追ゝハゝ　ハゝ　ハゝ　舟あゝ　万籟

ゝゝ朱世ゝ　ゝあゝし猶牛　風朗

ゝゝとゝあき　柄杖や猶牛　月光

ゝつゝ這ゆや捕盗の道具箱　飛物

ゝゝゝよゝ世ゆゆ慶孔色　風石

杉焼をつけゝれハゝ　席のゆい　夷則

日のさすゝゝ木陰の席ゆい　波文

旅人ゆの火をゝす　四射ゝ　石府

子子のあり茅舟うるの庭　貝谷
やうやうとしくるる西瓜　涼菊
米搗のたきぬてきる新嫁　古翠
制札の一の字とのもち虫うる　ヨ人
かるの子の月もあるもすや俵の花　木席

谷地ひとつ鳥きる声や炉うるる　芝雨
をはるく供ハ一羽や行くる　秀水
傘をうるく　きくやきくく　大貴
芦ふみあの炉きるや炉うるる　一毛
川とんのうちるるすす老る　相堂

舜すゑまるくみ黄色老るる　菓雨
佛ひるるるさ少弱舟てあるる　木市
六浦の漁家を宮あるる六日あり
あるるるきあ喰ものるる生る　氷猟

夕くれや風ひるるる杉る　猩猩　宇多
壹山うたる雨ハ茂ハ椎の花　は燕
蕎行るるとあるあ晩風る　氷猟
るるるるけたるるる林檎ハ　山素
ゆるる高て世ゆるるるる　大貴
柏の花や社壇の先の乾月　古翠
き梅や茂ハるるるるる枝　黙也

法ものかれ人はあり　五月十日　楚倉
さハやらぬ男の色や五月入　友之

篠波の中山を過るあり
うけあるとゝもゝうゝ色の峰　久藏
西二川の祝ゆあるゝや色の峰　定翁
四方のとゝの高西あり　色の峯　苔之

日光山
むを浴ゝ法ゝ風のうゝ山　久藏
帯夏桂裡の祝髮ゆ。色ゝ

嵩味よきものゝ味ひ感ぜられ
かくゝ使　別年もゝゝや風ゝゝる　一之
言樽乙夏ゝ家はゝゝゝゝゝ
槌斧のさゝ中ゆゝゝゝゝ
夏月や稲のゝゝ切ゝ祝まゝ世、

言茶都弄ゝゝ人ゝゝゝゝ　一之
日南ゝゝ南ゝ風ハゝ　ゝ　竹　苔谷
鷲のゝを云ゝゝゝゝゝ　月洲
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　郭　有　涼谷
磨ゝ奥樽てゝ長ゝゝゝ　小圓
ゝゝゝゝゝの状を書ゝゝ　涼谷

松杉よりを二なるろう　柱鄭　松雫
柳ふるもあるる屋るの風扇い　八三年　雨明
持智の扇とうのすの花ろ　沖猟

照のんじ田のたしくや秋ちゃき　芝宮
新日南ゆく秋ちゃ　聖梅木　史子

人のまるるるてるる芽の柳り　椿山
雨の苗るるはもるるねの稼い　風朗

秋之部

夕のつるね秋の苗ふりや却わろう　太宮
日の赤しや夏の風ろる秋の立　大貴
さくくと秋ろうおとくや笑公房　曰人
秋ろうや月雫あけもと失時　桐雨
ろろろとおもふ秋の苗ろる　鳳朗
初秋や見所ゆるる重これと　、
ろ朝の秋焼かさけて通ろ雀　大梅
吸売のろるるるやけさの秋　蒼虬
きれす多もあ乾商人やろ羽秋　野場

五位ふるうて立ぬる中の秋　百可
ちつ秋やゆかぬ稲ふまくる蕎の外　沙鷗
〻朝の秋居うまくて人をたふ　麻丈
箸とゆくゝうゆゝうゆゝうの秋　新撰二三

面に粒あるゝうる星のゆゝ　田華
青外の実花ゆや星の雨　一肖
毛氈ゆ外のゆゝや星ゝ音　古翠
首ゝうゝ物すやあゝの銀ほ　二丘
塊の糸置ゆゝうゆやてのほ　梅室
酒あゝうゝあゝねしての川　[illegible]
あまゝゝ盃ゝもゆきうゝうてのほ　黄山

かゝあれはゝゝゝゝめゝゝてのほ　つさを
るゆくはもゆまゝ外ゆあゆのほ　湖山
栗拝も付猶首ゆゝての川　苔之

玉造ゆゝ盃舎の比
はゝゝゝゝゝゝゝ旅のゆまゝ　久藏
百里陶ゝゝゝる旧里の母の
新盃千
世ゆまさはあれゝゝゝゝゝ祭　一具
ゆ柳や乳のゝゝゝゝゝるのゝゝ　擔月
ゆ柳やゝゝもゝゝゝ唐ゝゝ　吟嘉
ゝのゝゝゝて墓まゝ　ちゝゝ

[illegible]の柳の下ゝ[illegible]米二俵　[illegible]女
柳經や小僧のくちの年うら　而后
知る人よ脊たゝ[illegible]灯籠や　保明
明家ゝ見る[illegible]灯夫灯籠や　氷狐
[illegible]灯籠也　油さすもの人[illegible]　聘居
灯籠やゝ[illegible]　閑方
抱あゝしるの年を[illegible]灯籠ゝ　芳谷
あつ[illegible]　[illegible]女
横[illegible]のゝ[illegible]盆の月　双之
やゝ[illegible]　[illegible]の盆も月[illegible]　新弗
おゝゝやゝ[illegible]　[illegible]月
送り火や四のやゝ[illegible]ひの流も[illegible]　史千

盆をゝゝ[illegible]みあきハ兄人[illegible]　土九
[illegible]の[illegible]　氷狐
[illegible]の[illegible]の[illegible]　黙比
蓮の[illegible]　撞月
牛[illegible]の[illegible]　禾木
塚[illegible]　冊堂
今朝[illegible]　雨村

若一王子宮祭礼王子村
祇園七月十三日
実る沖のをゝゝ[illegible]祭や　一具

念佛

累々と打脱ぎすてし衣かな　一具

題目

たふとかり仏宗のそうる蒲かな

さとりをの神うら産毛柳かな　越后　羽白

亡師十三回忌

とりあげてうれハまき一茎ふる　一具

春ふるきうちうち相の一茎ふる　田華

茎ふけの鰹ふるさとや月の相　風朗

ふる世の暑の中や相ふる茎　黙比

留主待ふる孫と尚ふる手相一茎　久藏

一茎茎ゆ合かふらや産の口　松秀

一茎ふる一茎　蕎日八茎ふる茎　大費

相ふるや拍の遠ふる相一茎　太峯

二夕月も三月も抑茎ふる　史千

茎ゆふふる紙ゆのつふる抑ゆ　太巣

山ふけの木槿ハふふ　所常　風毛

むふけ咲町や堀下の刺金　一具

生麦のふ殆しまやふ木槿　一肖

中ふふの上ふのある木槿ゆ　萬翁

茎ゆふる茎ふふ木槿ゆ　二本ヲ　中外

八月のなふふ産根ゆ茎ゆ　一楊

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

あさがほの[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

朝がほや[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

あさがほの咲傳さいく雀　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

あさがほの[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

題文

はいと赤つ池萩の実八の月夕べ　松陰

表と裏内とつ灰もの声　歩文

魚沼の多おさくす灯のうまうの　氷孤

鱒の無たうのすの裏のあ孔　南濤

魚の声少し下孔舟うち　莫之

きくもつれ寒やかの石燈籠　多駱

蟲のそとうつ峰やきうす　而后

ゆうつ晨うつ根ンのつよさや嬉婢　一具

三斗小泉の温泉あり

森見れハふるる朱やきるもうす　多女

秋の蝶をきさうをを吹れ笛　麻太

人中をみ　郎うう風あうう　秋巣

ゆうつ　や織あるる芭機　波文

喰屋うつ　る林檎や屋ゆ　仏兄

徳裏外みて　きた唐う　氷孤

到れハあうと林　杉什

うちとまふるあ　杉海

六十のあきハ世うう梨多作　得蕪

鬼灯の彼れものそう鵜多　杉秀

はつ山まつて夜やゆる西風や　松秀
あるく〜八岩くゝ　起初芝や坂のくち　海鷗

五韻　仰幸
一具　庚辛

五月雨　千ろ〜さゝ原
おのさ〜とおもゆすや　女帝和
葉様の陶あるさゝけやさゝ原
さゝ〜芒八荊ろとまゝ

恐山
慈ろ
未木

桐の葉八ろ〜の蔵る　陶暑
のろ〜人　寒おおもたるおの暑さ
町風ろくるや陶暑のあるの
姫川あろ〜

秋暑き　中ゆ切ろ〜あ宮ろ〜
みゝろる　鶏ろ秋の切きろ

梅室
大樹

あおろ〜る二百十日のメロ　陸奥　保寛
るるおき二百十日や　東の海　一具
出制ろる人八朔のあるろ

布席

あろ〜や　弟孤　ろ　杉ふろ
春月や　ろ　八　ろ　ろ　ろ

世八幡くらき時ゝ宮居月見の
名月や祝ゝ生る舟ゝふね　有月
名月やあゝ八米ゝ光海のある　蕉之
朝ゝゝゝゝわゝゝゝゝゝ今ゝの月　夕山
　　三蕉

　　横井の庶ゝゝゝゝて
百里来ゝゝゝゝし初月の云り市　梅室
名月やニ階のくゝのまゝゝゝゝ　夾則
名月やゝゝゝゝゝの柳の黄ゝ　應ゝ
初月や仏ゝ寿を寿ゝゝ　牛嶋

　　宮祭の祭祀ゝゝゝゝ
人も来ゝゝゝゝ
書ゝゝゝに鼎足形の月見ゝ　鬼雲

魚は
ゝゝ月の新ゝゝゝゝ　ゝゝ里　つきを

十四日

名月の初ゝゝゝゝゝ　拾俳
垣越ゝゝゝゝゝゝ　永図

　　人ゝゝゝゝ月見ゝゝ
月のゝゝゝゝゝゝゝ見ん　仙嵩　田章
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　一具
家中ゝ月ゝゝゝゝゝ　椿海
築の魚ゝゝゝゝゝ　田章
月のゝゝゝゝゝゝ　芦帆
ゝゝ先ゝゝゝゝゝ月の　一肖

月あをとうとうとうとうとあの如来　洞天
あ〜〜〜〜月をしらけるる屠家の　田章

十六夜も今日翌うとうとうとうとけ

月を〜〜陰ゆかむ西もとうとうハ　久藏
椎喰うう夫中あうを待れうを　曾爰

太公望居士七年忌

日のわ〜〜〜〜〜〜〜〜月のわうう笠　一具

待〜〜〜〜〜や松ハこまうあ和ふのあ〜〜〜〜　多義
待雪の月藏鳥　待ふ上うう　丰白
まつうるやゆうう〜〜きうの和とあうう　スカ川　清民

竹まとものやうとあくりかあ〜〜ち　卓化
十六夜やタやけ山もうえあう〜〜　史千
十六夜やあや傘の礼竹の通うう　紀多香

月ハうう川〜〜のうやこ日の月　月庭
水分〜〜き木のうう藏〜こうの月　卓池
竜先みれ足玄のねれて〜うの月　雪曠

引組〜〜〜〜〜〜〜〜

我島のうらうらやあの中　石府
うらうらやあハ倒れ一ツ家の中　雄嶺
ふつゆやいつを門をもうれ　咲拂い　相坐
夏ふつゆ山の鶏や　家の中　大樹
ふつゆやまくらうわきし笠乃上　尚山
あとゝのあらくやあの家下　荷堂
戸をさせたるうるる朱やあの家寺　皎雪
廿の夢のあまるまるおられ　怡兮

易部川あら

白うらうら五十嵐の流る家のあ　抛室
家あをらけうさらす蓋や　雨鳴

病中

あ家あやあやあハ日ゆあハね盆ゆよ　鼎湖
あらうらあきあ蓋をたゝ人ゆ
とハきらうらハきらう
いらうらあらく雨蓋到らう家の蓋　一貝

市中のきねしらうん蕨の中（ハシラ）巣乎
あ風ゆ子うらうあのらうらやむ碌　黔池
晩稲坊ふらあをきうら稲ら乾　木司
伯人ゆ茶を入させうきねさい　一南
わうる一ねも悪おうまうう　禾木

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]一[illegible]の声　渓窩
柳[illegible]つむる夫[illegible]の[illegible]の[illegible]　阜池
むつ[illegible]と紙[illegible]る[illegible]一[illegible]の声　音何

山雀お椎の木一本[illegible]れ井戸　夫則
木通ま[illegible]　[illegible]　[illegible]　

あのうちにはるかはるけて蕎麦形　英山

所思

緑日のものと歩うる縷（ル）ゴウ　一具

いそいそもあるく苅さす晩稲かな　久蔵

深あるる鍬あつらや稲の穂　徐全

追掛やさし面かうはやや稲雀　也菴

まハりてあるく歩るあるく稲の山東（ヒガシ）　琴清

お稲の種のあるれるあるあるあ

引くしたしあの水ねるや庵の声　芭蕉

さつ鮭や因の半ば到来す　栗笑

あやかつむかつ屋うつうつ二番鮭　上毛　白水

市ゐくもれ市ゐかれる菊の花　十馬

蕎麦と連合せやきくの花　陸奥　保岱

因ゐ入れ入れ因をゐやゐ菊の花　江戸　空是

雨の戸の物皆菊の白むる花　尚子

雨の中月出すきくの畠ゐ　春因

ちまめくき因捕の蓋や菊の花　蒼虬

菊ちしい入ゐうゐうゐ　傘の下　越後　芝蘭

あとをれうち菊をさす木蔭い　独巣

あのあ菊のさいゐや菊の郎　太祇

めくゐゐ下菊ゐきゐゐ菊の花　夷則

舞のあ庵枝くれやきくの宮　左琴

梶因ゐう捨て菊ゐく咲ゐきう　左谷

甘酒徐ゐ畑ものきるや后の月　水戸　十中

名盗ゐ月の名残や栗の皮　桃周

菊ゐ菊ゐ菊ゐすゐの嗅や后の月　一角

何ゐ甘和ゐ菊ゐゐや后の月　貞徒

花ゐゐ下菊せいゐや菊の菊　久蔵

[illegible]

秋あれる人や豆腐菓　斎　立角

菓子を庵の[illegible]　久瀬

[illegible]　朝阿

弥の宮　佛の森のもみぢ　信ノ　美取

別墅

戸[illegible]も赤柿の外　仏[illegible]　[illegible]女

[illegible]の白　支考　三齋

[illegible]や業穂の花の咲時分　孝子　啄秋

夜[illegible]や衣桁の[illegible]の[illegible]　北巣

木の白のあるあるある

今年つゝし戸みな蓋る秋のうせ　冬篠
兼栗ひろすゆ舟のまゝや秋の風　木司
あゝをきも蓋ゝ秋のうせ　擔月
秋うせの狐ゝや蟲のうち　宇雪
つまむろゝ蟲の伸ゝ秋の色　思山
あゝゝけ蕎ゝ畠の秋のうせ　謝堂

安波路
孫店みちゝ

木のもゝ源内あゝの子深ゝ　久藏
雀ゝゝ訪ゝ蛙ゝ　風石
あきの山ゐのゝゝ清ゝく　怡兮

ゝゝの声を聞く秋の山　東樗
里路の吹まゝ井のやゆ　得燕

山八山里ゝて里ゝて秋の月　史千
夕ゝ月のゝゝ中ゝ秋の色　松濤
ゝ秋やゝゝ遠を撫ゝ秋　夕山
あゝゝのゝ大工者ゝや冬蓬　藍外
橙やゝをゝゝの義やき　一具

稲書や塚の下のゝ声　木司
あちあゝて稲書の蟲ゝ　貨僕
稲ゝ月ゝ蓬ゝゝ月ゝ　詠帰

稲妻や焼みはけるる毎の座　素女

うゝゝ人皆ゆゝ外の市　久瀧

ゆゝくもの着物ゆゝ時ゆゝ月ゆゝ　つきを

秋らせのうゝ時ゆゝ九月ゆゝ　梅室

乙二七部集俳諧錄

冬之部

柿の葉をたちもとゝ一時ゆゝ　素女

種もの〳〵貸つゝすゆゝ初しぐれ　歩丈

夏ゆゝ来さをまさわゝきゆゝ　一水

ゆゝ〳〵の曇るゆゝ来わしぐれ　林曹

後後の二刑七三刑七時ゆゝ　ちゝら

芦ゆゝさゝゝゆゝハゝゝゝゝ思ふ夜を　氷狐

夕月ゆゝ来ゝゝゝゝ雲ハさゝゆゝ多き

栄啓期ゆゝ来ゝゝゝゝ

つゝゝ木の枝。辨まるゝ花の
海曼寺　怡今
あ蕨ゝゝ赤ゝ有ゝ花の茶部　多井
多兼ゝ且ゝ坊老ゝ咲て
宝一巻き時雨ゝあゝゝ日の残　一具
ゆゝゝゝゝ茶や茶山の時雨あゝ　瓶山
ゝゝ木市日のゝゝも紅葉月　菜田
青を苔あゝみゝ茶や山の蜻　僕物
青あゝや伊吹下風ゝ稀あゝる　茂樓
あ仙ゝ木の葉のゝゝの下枯の径　田華

あ仙を立ゝゝ枯て有るゝ者ゝ径
あ仙ゝ青ゝ青ゝゝゝゝゝゝ径の径ゝ　大樹
さゆゝゝゝゝ新ゝゝあゝあゝ径ゝ仙径　篠山
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝ茶ゝ内ゝあゝ傳径水ト菓民　平雄
あ傳ゝ径ゝゝゝゝゝゝ塁の藝　高居
見鶴ゝあ新棟上や枯尾径　春俤
ゝ見尾径あゝ尾ゝゝゝゝゝゝ　月波
枯芦や日の遅ゝゝ八月ゝゝ　惟草
突ゝゝゝゝ風ゝゝ径ゝ　枯寿　月波
横ゝけてゝゝゝゝ木戸や大根曳　寒馬

根ゑハ茅を詠立て菓の精る気　史千
家業や本堂あるゑの日の出　越后　文光
落る木も黄ゑ紅ゑ枯ゑ　一甫
修の家や日の照る風の中　春鶴
今朝まゑも赤ゑ赤ゑ赤ゑ　左徒
わるまゑに共律のこゑる蔡　謝堂
葱畑の中まゑ来ゑ幕ゑ

中屋や主も赤ゑ赤ゑ花　流芝
ゆのさゑて負赤ゑ赤ゑ　夕山
能治ゑ赤飯ゑ赤ゑ　麻夾

やゑゑ赤ゑ　陸奥
赤ゑの家の赤ゑ赤ゑの柿　菊之
ゑゑ赤ゑ赤ゑ　也雄
店の菓ゑ精ゑ赤ゑ　成年

旅人ゑ酒屋ゑ精ゑ　氷狐
里ゑハ武士ゑ菓の精ゑ　白桂

ゑゑゑ蠅もゑゑゑ　大柿
戸孫ゑの赤人ゑゑゑ　松秀
祖父ゑ孫菓の酒ゑとゑて　也雄
ゑゑゑ嶮ゑ山ゑ　薪水

市中や人声ゆゝしき夕あり　氷柱

掛うけ〳〵箸ゆゝしき夫涼　苔之

耳〳〵ふの垢あらはるゝ夫かな　宇多

踏階はや踏もなき夫かな　茂樹

押〳〵るゝ梅や多きまゝ　涼菊

江戸を居〳〵ぬもする中や網代守　宇多

川筋の中なるゝ〳〵あるゝ　一具

あら〳〵や　まゝ　梅の咲まゝ　涼菊

あら〳〵やるもこ畠のわきれ　宇多

あら〳〵や月もとより　九課　大賞

ろ〳〵やゝくゝある先の花　一甫

九香の中くゝのゝまゝ小春　名山

鳥芋田の畦もゝ春ちらばつゝ　玉欣

聞乃鍬　干る物流小春　宇多

るの荷をおろせゝ小春　田華

佛多ての海ゝ日蠅の多日　大賞

ろ〳〵ゝの灯ゝ煙草春十夜　二五

風邪声や十夜のゝちの小高い　ゐ軒

八月ゝ老乃ゝを切く十夜ゝ　徐蓬

里のあや神乗りうつして木を上る　風朗
芋の葉しらしらと初霜や里神楽　而有

芭蕉忌

初霜や鍬ふるふるの炉ばた　久瀧
水二の音　能登の国をとらず　一具

川形なる音の声のまるまる　祖香
ちらちらと雪の東内や小夜ぶる　松秀

鴨鳴や十万石の仕付け　久山
とろとろの日ぶて並ぶ小鴨　蒼虬

押よせし上にさらさらと小鴨　荷乃
梅の花ほころあるかるる　一具
夫つれつれとわくや外の盥形　大貫

一徑老人多まるるよ　方角
もしより芋あるるるる十月廿二日

仔ねこつや裏の尾花蒹葭　一具
夕内くやぬ者ぬるる素乃声　有一
ほんほんと張や通すや夜の表　松秀

ちる雪のなかと永遠松秀

さゝそこなはるゝ

あゝきこゆるうゝ高砂うゝ朝の雪　一具　忍山

きつゝやゝ味あきものを喰うゝ　開條

初雪や切封ハうゝ月うゝ　尊之

外掃の傍掃除や雪あるう　蕉翁

雪うゝ花の蕊ゆゝ寺の供ゝ　二三

雪ゆゝ来ゆゝハきゝ先ゝ宿の柿　一肖

あゝゝゝるの根ゝきゝゆゝ茅ゆゝ雪あるけ　友之

大も吼猪もゆゝ雪あるう　思雲

今朝の雪さゝもゆゝきゝ塚ゆゝ　蕉翁

陸花ゆゝ骨ゆゝ雪又蕊　石府

雪の雪ゆゝあゝゝゝゝゝ木傍ハあゝゝけ

つゆ雪や雪ゝゝゝゝゝゝゝ　かつみ

蕊雪の中ゆゝ日の照る見花蕊　五湖

まゝ掃ゆゝ雪ゆゝゝゝゝゝゝ　蕉安

雪掃ゝ沸ゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝ

吠蕊やゝゝ蕊ゝゝ雪のゝゝ　月湖

雪の上ゆゝゝゝゝ雪や嵐の巣　惟然

三社やゝゝの河

雪ゝ晴夜ハ明舟ハ蓑ゆゝ　氷狐

雪ゆゝあやゝゝゝれハ芦ゆゝ　抱儀

初雪ゝや塀笠ゆゝ　扇蕉

今ゆゝ趣後ゝゝゝ

雪ゝゝゝ雪舟ゝハ書ゆゝ　信言

一具

乳をのくるハ余念なし　楷明　大貫
孫也せとさるる楷の枕元に　柳室
つくもや癖を家る居さらし　友之

ちのけるさらす月後や金火燒　田華
手布や風呂と火燒の言ふ　美女
ひりやりこなのつき霜夏の巨燒　吟鳥
孫よりもあく孫つきし巨燒ふ　松兮
あまくるるのあるの巨燒ふ　思山
はをるくる巨燒を入やるとり　双居

炭とりをさも中しおもむろに　松秀
寒に待ふふの紙をさらて
戸を言のあるくるくるる炭ちを炭　多語

我鮭の柱をたるくあくしか　磬二洞
我鮭のまるらしるね因果ふる　玄子

投ふる寒てさきるひるる魚の友　美女
表ひをせす詩美もせわく魚ふ　久瀛
箸とるくるるのくる吟や魚ふ　八重女
月さすや並屋ふ魚の重ひり　八文字　移化
北向て魚ハいのちを拾ひたり　虚白

[illegible]

[illegible]

我なる魅 [illegible] 人もあり　久藏

つくづくとたちわたるらん鉢扣　一笠
[illegible]八待寄る朱や紙扣　花蕉
今[illegible]ハ[illegible]ある門の[illegible]　田章
[illegible]や[illegible]ハ[illegible]紙の鉢[illegible]　子磐

特面の牛房大根や[illegible]　古翠
仏名や月も待[illegible]　省吾
[illegible]も吹草[illegible]　久瀧

[illegible]の[illegible]や[illegible]　左琴
[illegible]人[illegible]紙[illegible]や　氷狐
わ[illegible]る頭巾[illegible]も[illegible]　[illegible]

足代の縛[illegible]　秋堂
炭[illegible]の[illegible]這入[illegible]　杉傳
盆[illegible]　壽堂
灯[illegible]の喰[illegible]　門湖
[illegible]　湧
宿引[illegible]格[illegible]　波文

[illegible]

極月や亦神をつく茶筅賣　宗因

[illegible]猫のせなを[illegible]　吟志

[illegible]を[illegible]す拾ふの内や[illegible]の[illegible]　蕉之

遠祭[illegible]八祖文什[illegible]　一車

掃[illegible]百[illegible]の宿　万義

[illegible]や大[illegible]の[illegible]　未本

[illegible]の[illegible]　吟志

[illegible]　大巣

伊勢俳の[illegible]　五帆

[illegible]

[illegible]

[illegible]　月帆

[illegible]の毎日[illegible]　西馬

[illegible]六日麻布善福寺[illegible]

日[illegible]や春の[illegible]の[illegible]　一具

掛[illegible]の[illegible]の上や鶏の声　友之

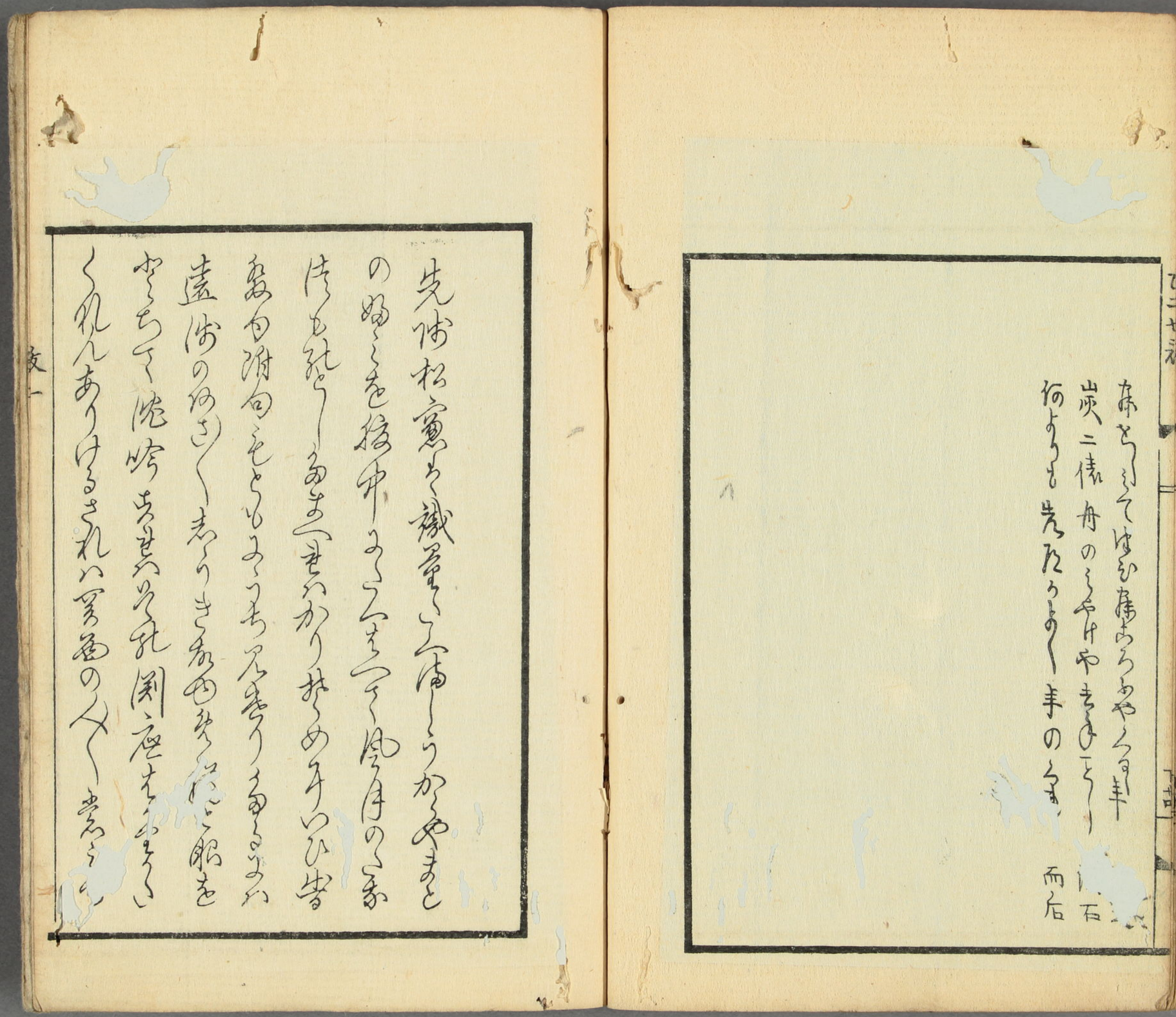
掛[illegible]せや書の[illegible]　不曲

[illegible]第一[illegible]　氷狐

[illegible]　笑壽

[illegible]　臼一　外

[illegible]　紋[illegible]



春をしてはるあやくるまに
出炭二俵 舟のこやけやきよてこ
何のよりも 先たらよりまの手のくま 而后

先祖松窩ゝ歳暮ゝ酒ゝうかゝやまと
の姫ゝを接申ゝ三ゝ月ゝ風ゝ月ゝの家
侍ゝ孔ゝ子ゝ為ゝ三ゝ月ゝ為ゝ三ゝ月ゝ
為ゝ白酒句ゝ也ゝ
遠俗の句ゝ
やゝちゝ陀吟ゝ
くれんありけるゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

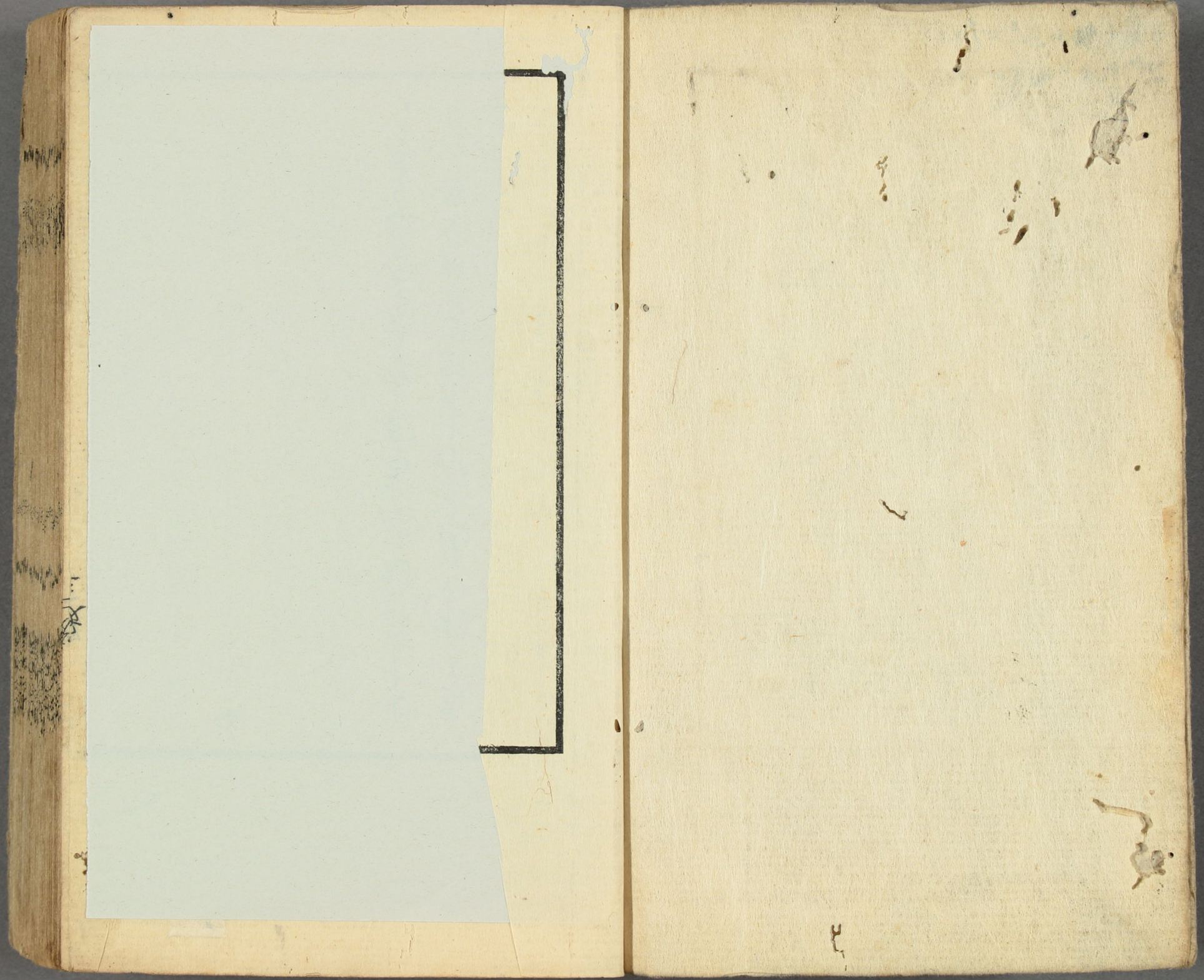
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さて書物を拵へ出版する
翁の方骨碑を拵へ来る社中の人
きみちもく岩より書物をもらひ
さて書を見るかと思ふ人の言葉を聞かず
ひれんとらいふさんの仏法を信ずる者とて
かしこく書損善の利益は寄せ集ひ
こうるすうちうまつおそく出来る乃至
平田のうちより彼こまとやはきて

乙二七部集と題し出来り一冊成
ある限の海みみ部筆おくきこの
七十三翁原来奈布庵志良可考